

テーマ：景気動向指数（2017年6月）の予測

発表日：2017年7月31日（月）

～景気は着実に改善～

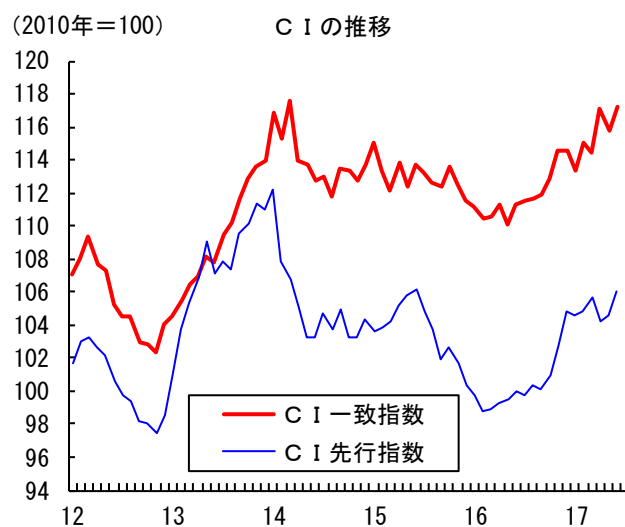
第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

内閣府から8月7日に公表される2017年6月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差+1.4ポイントと予想する。内訳では、鉱工業生産指数や生産財出荷指数、耐久消費財出荷指数などの生産・出荷関連系列が押し上げる見込みである。17年入り以降、C I一致指数は前月差でプラスとマイナスを繰り返す振れの大きい展開が続けているが、こうした振れを均してみると、着実な上昇傾向が続いていると判断できる。8月14日に公表されるGDP統計では高成長が予想されているが、C I一致指数からも景気が好調に推移していることが見て取れる。また、C I一致指数と関連の深い生産予測指数で7、8月と良好な数字が示されていることから考えて、7-9月についてもC I一致指数は上昇傾向が続く可能性が高いだろう。

6月のC I先行指数は前月差+1.5ポイントを予想する。内訳では、生産財在庫率指数や最終需要財在庫率指数、新規求人数などがプラス寄与になるだろう。在庫関連系列でこのところマイナス寄与が目立っており、在庫調整圧力の高まりが懸念されていたが、今月は明確に在庫率が低下し、そうした懸念が和らいだ点は好材料だろう。

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、9ヶ月連続で「改善」が予想され、景気が回復傾向が続いていることが示されるだろう。先行きについても、海外経済の回復を背景に輸出が増加する可能性が高いこと、企業収益の増加を受けて設備投資が回復することなどを背景に、景気は着実な回復傾向を続ける可能性が高い。C I一致指数の基調判断も「改善」が継続するだろう。

なお、足元の2017年6月までで景気拡張期間は55ヶ月となっており、これは1986年12月から1991年2月までのバブル景気の51ヶ月を上回る戦後3番目の長さである。そして仮に、現在の拡張局面が2017年9月まで続けば58ヶ月となり、1965年11月から1970年7月までの「いざなぎ景気」の57ヶ月を抜いて戦後第2位になる。現在の景気状況を踏まえると、いざなぎ超えの可能性は非常に高いと見て良いだろう。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2017年6月は第一生命経済研究所による予測値